

# 西宮えびす

平成二十七年 新春号



## 西宮神社、えびす信仰の広がり

えびす廻しの木偶、土人形など

# 十日えびす

特別祈禱 福まいり／招福厄除  
文化研究所だより(六)  
えびすトピックス

えびす

NISHINOMIYA EBISU  
平成二十七年 新春号

西宮えびす 平成二十七年新春号(通巻第四十二号) 平成二十六年十二月一日 発行  
発行/西宮神社 〒460-0074 兵庫県西宮市社家町1-17 電話 0798-60-0321 FAX 0798-60-5000

編集/文化課 印刷/小西印刷所

三代目天狗久作 えびす廻し木偶

## 二月～五月行事案内

二月	三日 十時 節分祭	十一日 十時 紀元祭	十七日 十一時 初午祭(境内末社神明神社)	二十一日 十時 春季皇霊祭 通拝
三月	九日 十一時 境内末社 梅宮神社祭	十一日 十一時 境内末社 宇賀魂神社祭	二十九日 十時 昭和祭	
四月	二日 十一時 境内末社 松尾神社祭	三日 十一時 境内末社 梅宮神社祭	九日 十一時 境内末社 宇賀魂神社祭	
五月	一日 十時半 西宮郷酔友会太々神楽祭	三日 十一時 大阪第一招福組太々神楽祭	四日 十一時 日供講社太々神楽祭	五日 十三時半 西宮太々講社神楽祭 (えべっさんこどもまつり)
	六日 九時 境内末社 六甲山神社祭	十日 十一時 諸国講社太々神楽祭	十一日 十一時 本えびす講社太々神楽祭	十五日 十一時 境内末社 大國主西神社祭

※毎月二日、十日、二十日は旬祭が斎行されます。どうぞご参列ください。  
※毎朝九時(四月から八時半)から大威詞を奏上し参拝致します。どうぞご参加ください。

平成二十七年

## 新春祈禱・神楽奉納のご案内

新春の御祈禱は、えびす様の鎮まります本殿の大前に於いてご奉仕しております。平穩無事を感じると共に、新年の福徳円満をお祈りください。またご来社のかねわらない方には郵便でのご祈禱も承っております。祈禱殿神楽所に於いては御神楽を承っております。どうぞ御神楽をご奉納いただき、えびす様の福をお受けください。

### 御祈禱

- 一月一日 ○時～十八時
- 二・三日 九時～十八時
- 九・十一日 八時～二十二時五十分
- 十日 六時～二十二時五十分
- ◎個人 五千元
- ◎会社団体 二万円

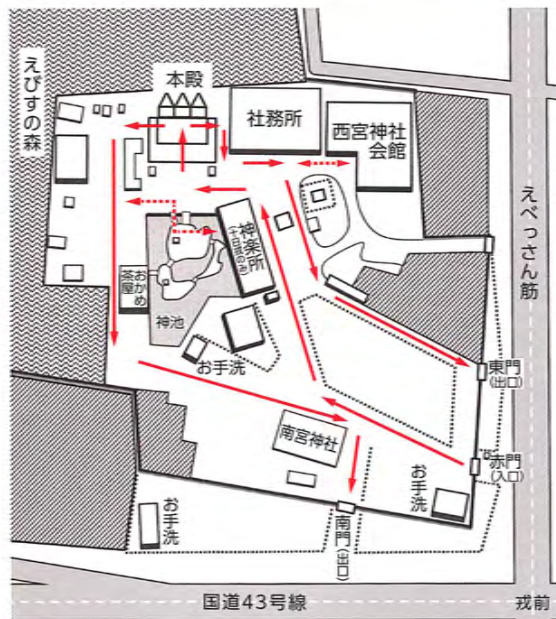


御神楽  
一月九・十一日 八時～二十二時五十分  
十日 六時～二十二時五十分

◎御初穂料 三千元  
(この間二万円以上の御祈禱料お納めの方は、神楽をお受けいただけます)

## 境内のご案内

(十日戎は→に一方通行となります)



twitterで西宮神社の最新情報を  
[http://twitter.com/nishi\\_ebisu](http://twitter.com/nishi_ebisu)

西宮神社 公式サイト 検索  
<http://nishinomiya-ebisu.com>



西宮神社 公式サイト QRコード

編集室から  
平成二十七年を迎え、特に根拠はなくても明るい気持ちになり、差し昇る朝日を拝めば今年も良い年になるように思う。  
昨年もしつづつ日本が日本を取り戻し始めたように見えたが、大東亜戦争の敗戦より七十年、いまだ様々な場面で未解決の問題として思い出されるのは、世界的にも大きな痛手であつたといえよう。  
二十年前、伊勢の少宮司を務めておられた吾が師は、年賀状に憂国の至情を毎年記し残されたが、浮世に妥協せず、清く正しく、明るく福々しい太平の世を開くべく、今年も微力を尽くしたいと思っている。

# 新春を寿ぎ 福の神えびす大神さまのご加護のもと 益々のご多幸をお祈り申し上げます

西宮神社 宮司 吉井良昭

元禄十六年十一月、元禄文化に酔いしれていた江戸市中は一瞬にして酔いから目覚めることとなりました。房総半島を中心に南関東一帯は大地震、とりわけ大津波によって甚大な被害を受けたのです。これが元禄の大地震です。江戸初期から西宮と房総地方は漁業を通じて深く結ばれ、人的な移動を含めさまざまな交流があったようです。そのためこの津波によって西宮の漁師も犠牲となりました。場所は房総最南端の館山市船形、この地で一基の供養塔が三百年余り前のこの悲しい出来事を伝えています。

館山湾の青々とした海原を一望できる「崖の観音」で親しまれている大福寺境内にその供養塔は鎮まっています。そこには安房や上総の人とともに「摂州西宮住」の四人の犠牲者の名前が刻まれています。漁業を営む人々で西宮から移り住んでいたか、或いは季節で房総方面にやって来た西宮の漁師たちでしょう。館山の人々も大きな被害のなかを、遠い西宮から訪れていた犠牲者に対して、こころを込めて供養塔を建てたのです。大地震、大津波が齎した犠牲と友情の碑は、ひっそりと、しかしながら確かに後世に伝えられています。

今年には阪神淡路大震災から二十年を迎える節目の年です。未曾有の近代都市災害にあたり当社も筆舌に尽くし難い災害を蒙りましたが、自衛隊を始め各企業、そして遠近にかかわらず多くの人々の暖かな支

援が被災者の心を支えました。遠方からのボランティアも、確かこの震災を契機に活発になったように思います。阪神淡路大震災、東日本大地震で日本人は危機に直面しても冷静さを失わず、礼儀正しくそして思いやりをもって行動しました。それは元禄の供養塔も示しているように、他者のことを自己のこととして深く共有し寄り添うという先人から受け継いだ美しい伝統のこころです。

避けては通れない自然の脅威に、私たちは日ごろより謙虚にして、共助のこころをしつかりと保ち続けることを忘れてはならないことでしょう。

## 津波犠牲者供養塔の刻文(抜粋)

- 元禄十六年
- |      |          |        |
|------|----------|--------|
| 正西信士 | 生国摂州西宮住  | 俗名六郎兵衛 |
| 玄了信士 | 同国西宮住    | 俗名善重郎  |
| 西瀨信士 | 同西宮      | 俗名万五郎  |
| 浄心信士 | 不退金網山丸施主 |        |
|      | 俗名中村佐平治  |        |
- 末十一月廿三日  
(千葉県立安房博物館発行「地震と津波」展示解説図録より)



大福寺 崖の観音(館山市)

# 文化研究所だより(六)

## 江戸時代の神職の髪型

以前この小稿において、江戸時代の神主以下神職の装束についてお話ししましたが、髪型はどのようなものだったのでしょうか。江戸時代というころもあり、月代を剃ったちよんまげ姿を想像される方もおられるのではないかと思います。そこで、今回は「社用日記」に記された、髪型をめぐる問題をご紹介します。

享保十年(七二五)九月二十二日、神主吉井良信は領主尼崎藩へ息子左京(当時十七歳、吉井左京亮(良行)の元服について書付を提出したところ、藩役人より、「古来より束髪之處、此度末々跡目相勤候左京二候へハ、此度始り二成候存入如何」と、神主は昔より束髪(図参照)であるが、左京は將來神主職を継ぐ者であるのに今回前例にないことを行うとする存念を尋ねられます。ここからは何が前例にないのかを読み取れませんが、それに対する吉井良信の返答に



【図】惣髪(喜田川守貞「近世風俗志(守貞謄稿)(二)」(岩波書店、1997年)より転載)

「江戸御殿中へ罷出候大社神主も月代三而相勤申候」とあることから、元服と同時に月代を剃ることが書付に記入されており、それが前例のないことであるため藩役人に問題視されたことがわかります。そして、吉井良信は大社の神主も月代で江戸城へ登城している事例を持ちだして反論する、という構図であったことも窺えます。

また、吉井良信は「旅へ罷出候節氣毒之儀共御座候二付願申候」と述べているように、外出の際、束髪では「氣毒」(当時は、自分の心に苦痛や困惑を感じる、という意味で使用)であるという理由を付しています。

この問題は、藩では判断しなかったようで、同じ藩領内の住吉社・生田社の神主については「勝手次第」と指図するが、西宮社は江戸城にて年頭御礼を行う格式ある神社であり、「右之趣二而いケ様之儀出来之節、御差図と有之候而ハ如何思召候」と、何らかの問題が生じた場合、藩の指図で行ったとあつては藩の責任になるため、自己判断で問題ないと思えば願書を提出せよと指示しています。

なにやら現在に通じるような藩役人の責任回避の仕方ですが、結局、吉井良信は元服の際に月代を剃らせ、束髪は神主職を相続した時点で行うという折衷案を採ります。元服と相続とを切り分けるという論理で、元服から相続までの間だけでも息子に月代姿でいさせてやろうとしたわけです。吉井良信の親心が垣間見えます。

これは神主家だけの問題であつたのではなく、この前年の享保九年には社家東向左膳が藩へ無許

可で長髪から「男二成」ついていたことが問題となっています。これに対して藩は「私二有髪之社家月代いたし候ハ不届」として左膳を逼塞(自宅謹慎。閉門より軽く、遠慮より重い刑罰)に処します(二月十五日条)。このことから、「男二成」とは、月代を剃ることであり、ここでは藩へ無許可である点と、本来有髪であるべきはずであるという点が二重に問題となつていると考えられます。

なぜ左膳は無断で月代を剃ったのかという藩の尋ねに対して、神社の責任者として返答した神主は「拙者伴儀もなで付ハ道中等之節も山伏之様二而氣毒二候」(二月八日条)などと、自分の息子の事例を出して左膳の行為を理解を示しています。この一件もさきの左京元服の事例の前提になつていと思われまふ。

いずれの事例も有髪を嫌う理由として「旅」「道中」の際の見栄えを挙げており、行きかう人々にまさに「山伏之様」に見られてしまうことが、神職身分である彼らにとつて我慢ならなかったのではないのでしょうか。ただ、吉井良信は江戸年頭礼を行う他の神主は月代であるとして述べており、この点はレトリックの可能性を含めて検討すべき問題です。

現在に生きる我々の視点からは、月代姿はやや奇異にうつります。しかし、当時は成人男性にとつては月代姿であることが常識であり、有髪であるべき神職ですら月代姿でありたいと願っていたのです。この事例は、当時の人々の考え方や行動を現在の常識にあてはめて推し量ることの危うさを教えてくれているといえまふ。

(西宮神社文化研究所主任研究員 松本和明)

# 西宮神社、えびす信仰の広がり

## — えびす廻しの木偶、土人形など — (一)

### えびす廻しの木偶

当社御祭神「蛭児大神(えびす様)」の信仰の広まりには様々な要因が挙げられており、その一つが「夷かき」「戎まわし」等と呼ばれている人形遣い連の存在です。

街や村の家々を回り、目出度い戎舞を舞い、西宮神社えびす様の御神影札を配り、ご祝儀を頂くのが、散所(現在は西宮市産所町)の民である人形遣いの重要な仕事の一つでした。

人形遣い連の行う「戎舞」は、浄瑠璃と結びつき、淡路国、阿波国で「人形浄瑠璃」に発展してゆきます。ところが、この西宮では様々な要因から下火となり、やがて明治の中頃には姿を消してしまつたようです。



作者…三代目 天狗久  
演者…この人形は現在では舞われていない

農村漁村古い都市の中からも消えて行つてしまつた祝儀舞、えびす舞や獅子舞。生活が変わつてしまつた現今、昔のような姿での復興は難しいものがありますが、絶やしてはいけない、何とかしてみよう、このような勇気が、発祥の地、西宮に人形芝居を復活させました。

活動の中心になつている「人形芝居えびす座」、そしてその仲間「語り部西宮物語」が使っている人形(木偶)を紹介します。

また、各地で今でも作り続けられているえびす様の土人形等が、当社の信仰資料として蒐集されており、併せて紹介いたします。

阿波国の人形師、初代天狗久吉(安政五年(昭和十八年)・二代目吉岡要(明治十三年(大正四年)・三代目吉岡治(明治四十四年(昭和五十二年)と続いたが血統は途絶え、現在は、平成十三年に設立された「阿波木偶作家協会」(桑原信義会長の約五十人の会員が後継しておられるようです。

●高さ…65cm

### 翁のえびす

作者…人形作家 増田とし子  
演者…(行事ごと)に演者は替ります



西宮神社の世話人、西宮まつり協議会会長、渡御委員長も御奉仕された藤村浄翁。明治四十五年二月のお生まれで、平成二十六年に満百二歳となるのを前に報恩感謝の誠を捧げるべく、「翁のえびす」「幼なえびす」「翁百太夫」の三体のえびす昇き人形を奉納された。

●高さ…68cm

### 幼なえびす

作者…人形作家 増田とし子  
演者…語り部 西宮物語



天の岩樟船にて西宮の浦に届かれた蛭子の神えびす様を、その浦に住む道君坊百太夫という名の翁が撫育し、お仕えしたと伝えられています。道君は人形を操つて、幼きえびす様に善と悪の違い、正直の尊さをお教えしたとあります。この伝説に因み、えびす昇人形「幼なえびす」「翁百太夫」が創作され、藤村浄翁百二歳報恩感謝の奉納となりました。

●高さ…43cm

### 翁百太夫

作者…人形作家 増田とし子  
演者…語り部 西宮物語



道君坊百太夫が人形を操つて、幼きえびす様を教え導いたことが人形操りの始めとされ、道君をお記りする百太夫神社が、幼き子どもの守り神とされる所以と言われております。

●高さ…58cm

### 福の神 えびす だいこく

作者…人形作家 増田とし子  
演者…語り部 西宮物語



西宮神社の御祭神「蛭児大神(えびす様)」そして、境内末社である大国主西宮神社の御祭神「大国主命、だいこく様」は、「福の神えびすだいこく」として、広く人々に崇敬されています。室町時代頃よりこの西宮の傀儡師達により舞われていたという「えびすだいこく舞」のための人形「若えびす」「だいこく様」を作り、毎月二十日旬祭にて上演していらっしゃいます。

●えびす様高さ…58cm、だいこく様高さ…58cm



作者…勝部 継弘、武地 秀実  
演者…人形芝居えびす座

人形芝居えびす座の初代人形で、平成十八年に発足した当時の素朴なえびす様です。永らく途絶えていた西宮の人形芝居復興のさきがけ的存在です。

●高さ…30cm



作者…佐々木 義隆  
演者…人形芝居えびす座

三代目の人形は、西宮市と共同環境都市宣言をしたアメリカカパーモント州パブリントン市の小学校でも、西宮を代表してえびす舞を披露しました。

●高さ…60cm



作者…柴田 英典  
演者…人形芝居えびす座

二代目えびす舞の木偶です。商店街のお客でもあった柴田様が太鼓、現在も使用と共に製作して下さったそうです。

●高さ…35cm



作者…増田とし子  
演者…人形芝居えびす座

四代目は、百太夫神社祭や西宮まつりに初めて参加したお人形です。愛らしい微笑みが人気で、番長く活躍されました。東日本大震災後の女川町の仮設住宅で「西宮の福の神が舞い降りた」とえびす舞を抱き合い共に生きることに感謝しました。

●高さ…50cm



作者…人形 洋(甘利 洋一郎)  
演者…人形芝居えびす座

本年平成二十六年九月に奉納された七代目のえびす人形です。  
正月十日えびすの百太夫神社祭、前賑わい、会館行事や、西宮まつり海上渡御祭、また毎月十日の旬祭にもえびす舞を奉納しておられます。  
着物 松本れい子、わらじ 浜田 正博、刺繍 戸村知子の各氏(皆、西宮市民)が担当しておられます。

●高さ…60cm



作者…松岡一美、武地 秀実  
演者…人形芝居えびす座

六代目は子供たちには大変人気の人形でした。創作狂言あそび「猫太夫と鶴おとこ」はこの人形でないといえない仕組みになっています。

●高さ…60cm

# 西宮神社、えびす信仰の広がり

— えびす廻しの木偶、土人形など — (二)

土人形など (全国に生き続けるえびす様のお人形などの一部を紹介します)



**八橋 恵比寿大黒像 (秋田) ①**  
秋田市八橋の八橋土人形。道川人形店は八橋土人形の唯一の製作所。  
●高さ225mm×横180mm×奥行90mm (恵比寿像)  
●高さ210mm×横120mm×奥行90mm (大黒像)



**綱乗りエビス (岩手) ②**  
岩手県遠野市の附馬牛(つきもうし)人形。嘉永年間(1824-1829)に創始。土と和紙を練り合わせた白で描きこれを波上り乾燥させ、彩色を施す。波上の鯛に跨るエビス。  
●高さ200mm×横192mm×奥行85mm



**芝原(しばら)人形 えびす**  
●高さ112mm×横66mm×奥行48mm



**芝原(しばら)人形 鯛担ぎえびす (千葉) ③**  
芝原人形は、多くの郷土人形の例にもれず、京伏見人形に源を発し、江戸の今戸人形、更に上総国長生郡辺りに伝わり創始されたといわれている。現在は四代目千葉惣次氏が長生郡長南町岩掛で仕事をしている。



**とよま土人形 えびす大黒 (富山) ④**  
とよま土人形は、嘉永年間藩主前田利保公が名古屋の陶工を呼び寄せ、千歳御殿に千歳齋を設け陶器を作る傍ら、天神臥牛を献上したのが始まりといわれている。その後、天神様や抱き雛など、縁起物、玩具などを作ってきたといわれている。現在は、とよま土人形伝承会を結成し、伝統技法を伝える努力をしているといことである。  
●高さ70mm×横40mm×奥行40mm



**かしら人形七福神 (長野) ⑤**  
中山道・奈良井宿(現塩尻市)の土産物店藤屋手づくり人形。  
●高さ200mm×横98mm×奥行78mm



**金谷(かなや)土人形 えびす大黒 (静岡) ⑥**  
静岡県金谷(島田市)の土人形は、多くの郷土人形の例にもれず、京の伏見人形の流れを受け、江戸時代の終り頃始まったといわれている。しかし、明治には廃絶したため、伏見人形の特徴が色濃く残ったままになっていったようだ。これが平成八年復活され、今日に至っている。  
●高さ170mm×横100mm×奥行105mm



**静岡張り子掛鯛 (静岡) ⑦**  
「静岡張り子」は澤屋又はダルマ屋と通称される杉本家で造られており、初代嘉助が安政元年に開業。現在四代目杉本栄司。この掛け鯛は、静岡市横田町の西宮神社えびす講の縁起物の祝鯛である。  
●高さ288mm×横312mm×奥行55mm



**きらら鈴 えびす大黒 (愛知) ⑧**  
吉良上野介の所領の三河・吉良の山特に西尾市八ツ面山(やつおもてやま)は雲母の産地として有名であった。明治の頃、この地の陶工加藤熊蔵の手により、「きらら鈴」が作られた。雲母を土に練りこみ、固く焼きしめられ明るく澄んだ清らかな音色の土鈴です。  
松田克巳作  
●高さ78mm×横47mm×奥行40mm



**若狭瓦「えびす像」 (福井) ⑧**  
若狭瓦は江戸初期、小浜城築城の御用瓦として製造されたのが起こりとされる。飾り瓦は、厄除、火伏せ、出世、招福のため、降り棟の先につけられた。  
●高さ278mm×横155mm×奥行120mm



**小幡(おぼた)えびす大黒人形 (滋賀) ⑨**  
享保年間頃より近江湖東の小幡で始められた郷土人形。伏見人形の流れを汲み、「小幡でこ」と呼ばれる中山道を旅する人の土産として親しまれたといっている。  
●高さ90mm×横50mm×奥行32mm (大黒像)



**信楽焼 えびす様香炉 (滋賀) ⑨**  
信楽焼のお土産。  
●高さ116mm×横95mm×奥行100mm



**京人形 えびすさま (京都) ⑩**  
京人形、笹で鯛を釣ったお姿。  
●高さ200mm×横125mm×奥行130mm



**えびす大黒 遊戯像 (佐賀) ⑭**  
小振りの有田焼の磁器で、えびす様が太鼓に跨り戯れている様子。明治期の作と思われる。有田焼特有の鮮やかな彩色。大黒を押さえつけているような構図の謂れ、恵比須の右手に持つ物は不明。  
●高さ182mm×横46mm×奥行55mm



**張子えびす (香川) ⑫**  
高松張子。江戸時代初期、水戸より入封した藩主に従い張子職人もその技法を持ち込み伝えたといわれている。宮内フサ氏81歳の作品。  
●高さ210mm×横230mm×奥行110mm



**張子えびす (香川) ⑫**  
●高さ210mm×横230mm×奥行110mm



**津屋崎えびす人形 (福岡) ⑬**  
福岡県旧津屋崎町(福津町)の土人形。博多人形の流を汲むが、流し型ではなく、二枚型による手押し製法で重厚感がある。  
●高さ315mm×横220mm×奥行160mm



**ひぜん張子えびす様 (佐賀) ⑭**  
佐賀市内には全国でも最も多くのえびす様が祀られていると言われています。この街角のえびす様を「まつばら工房」が「創作ひぜん張子」にしたものです。  
●高さ112mm×横72mm×奥行72mm

福の神えびす様に福参り

# 十日えびす

一月九日(金)～十一日(日)

阪神間最大の祭りといわれる十日えびす。境内では三日間で百万人の方が福々しいえびす様の福をもとめてお参りします。

一番福を目指し：：

開門神事福男選び

一月十日 六時



一月十日午前六時、開門を告げる大太鼓の音と共に参拝者が一番福を目指し本殿へ走り参ります。

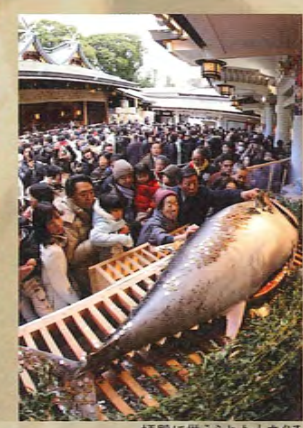
西宮に伝わる習俗

身心を鎮め清浄潔白を期す

忌籠りと逆さ門松



十日戎大祭に清浄な身心で奉仕する為、十日0時に神門を全て閉ざし神職は忌み籠ります。鎌倉時代にも通るこの神事は江戸時代には神職だけでなく、氏子中が九日の夜には門前に逆さまに門松を立て掛け、家の中に籠っていたという記録が残っています。十日えびすは明治の頃、鉄道の開通など交通機関の急速な発展と共に、市外からの参詣の人もみるみると増加します。その方氏子中の逆さ門松や、忌籠神事はなを潜めてしまいません。しかし、平成二十年、古式のままに逆さ門松は復興、拝殿前に設置され、皆様をお迎えしております。



## 年未年始行事予定

十二月	二十三日	十時	天長祭
十二月	二十七日	十時	煤払い
十二月	三十一日	十一時	逆さ門松調製
一月	三十一日	十六時	大祓
一月	一日	十八時	除夜祭
一月	一日	六時	歳旦祭
一月	二日	十時	奉射事始祭
一月	三日	九時三十分	元始祭
一月	五日	十一時	境内末社百太夫神社祭
一月	七日	十時	昭和天皇祭 遥拝
一月	八日	九時頃	招福大まぐろ奉納式
一月	九日	十四時	有馬温泉献湯式
一月	十日	十六時	十日戎宵宮祭
一月	十日	四時	十日戎大祭
一月	十一日	六時	開門神事福男選び
一月	十一日	残り	福
一月	十五日	十時	十日戎報賽祭
◎福火点灯	十二月	三十一日	十八時三十分～翌十七時
◎福火点灯	十二月	三十一日	八時～十七時
◎福火点灯	一月	二日	八時～十七時
◎福火点灯	一月	三日	七時三十分～十七時
◎福火点灯	一月	十五日	七時三十分～十七時

拝殿に供えられた大まぐろ

有馬温泉献湯式

福笹授与

特別祈禱

# 福まいいり、招福厄除

平成二十七年  
二月一日(日)～二月十日(火)

今年厄年の方に限らず、立春招福のこの期間中には是非、福まいいりをして厄落としを祈願してくださいます様、ご案内申し上げます。



福まいいり御膳

尚、**二月一日に「福まいいり」のご祈禱を受けられた方には**  
 ご祈禱後、神社会館にて直会料理として「**福まいいり御膳**」をお召し上がりいただき、より福をお受けいただけます。

◎期間／平成二十七年二月一日(日)～十日(火) 九時～十六時三十分  
 ◎受付／西宮神社 祈禱殿  
 ◎特別祈禱料／一万円

※福まいいり御膳：特別に調製したこの御膳は、白を基調として調理しております。これは古米、厳粛な祭典奉仕に臨むにあたり、清浄な白い食物のみを食することによって心身をより清め穢れを除いたという伝えによるものです。ご祈禱を受けられた後にこの膳をお召し上がりください。

## えびすピクニック

### 柳原蛭子神社へ産宮参り一行参拝

九月二十三日、当社では渡御祭を斎行し、えびす様の「鎮座伝承に則る「産宮参り」を行います。今年には和田神社、三石神社に加えJR兵庫駅前に鎮座する柳原蛭子神社へと参拝しました。柳原蛭子神社は古くは今より少し東の「西宮内町」に鎮座し、西宮神社の神輿の行在所となっております。後に現在の柳原の地へと遷座されてからは「柳原のえべっさん」と親しみ込めて呼ばれています。当日は井上優宮司を始め、神社ご関係の方々



に多数お出迎え頂き、厳粛に参拝をさせていただきました。



### えびす舞人形奉納奉告祭

九月三日

本号の3～4頁に紹介しております人形芝居えびす座の、七代目のえびす様の奉納式が、九月三日に行われました。昨年もこの時期に、語り部・西宮物語が使用する人形が奉納され、徐々に着実にえびす舞が再興されつつあるのを実感いたします。



七代目えびす様人形奉納式

### 西宮神社、西宮文化協会共催 月見の宴

九月八日

今年も旧暦八月(中秋)十五夜に観月祭を執り行い、神社会館に場所を移して月見の宴が行われました。毎年、お月見料理を前に清興が催されますが、本年は大蔵流狂言「寝音曲」が善竹忠重二門により披露されました。独特の節回し、張りのある音声、そして可笑しみのある内容に参列者一同、暫し空腹も忘れていたのではないのでしょうか。



月見の宴で大蔵流狂言を観覧される参加者の皆様